

香取遺産

Vol.116

○(50)1224

下仲町の山車人形「菅原道真」
だし飾りの到達点
三代目安本亀八の傑作



▲菅原道真(下仲町)



▶仁徳天皇
(南横宿)

◀経津主命
(荒久)

▶桃太郎
(中宿)

◀菅原道真近景



明治から大正期にかけて、佐原は大人形づくりの一大ブームを迎えます。数々作られる人形の出来は、その町内の評判を左右し、必然的に高度な技術を要求するようになっていきます。そして、ブームの末期を迎えた到達点は、生人形による大人形制作でした。

「生人形」とは、生きた人に似せて作った人形のことです。徹底した写実主義に基づき血管や皺、歯など細部に至るまで精密に彫られているものです。江戸時代末期から明治の中頃まで、見世物として庶民の人気を博していました。当時の名人としては、松本喜三郎や安本亀八が有名です。佐原の大人形を手掛けたのは、生人形作りの名人と呼ばれた三代目の安本亀八です。三代目亀八は明治元年(1868)に初代亀八の三男として生まれ、幼名を亀三郎といいました。下仲町の菅原道真の人形が出来たときに佐原に来て「この人形はよく出来たので大事にしてほしい」と言っていたそうです。

佐原に残る亀八の作品は下仲町のほか、荒久の経津主命、中宿の桃太郎、南横宿の仁徳天皇があります。これらは、だし飾りの到達点に位置付けられる作品であり、中でも下仲町の菅原道真は、大正10年(1921)の制作以来、補修の手が加わっておらず、原作者の作風を良くとどめていることから、平成14年4月1日に市の有形民俗文化財に指定されました。

文芸

作品募集 はがき1枚に俳句2句・短歌2句または「短歌」の係まで。毎月15日までの到着分(12月は10日締切)を審査し、翌月号に掲載。掲載される作品は、選者により評を踏まえて添削される場合があります。

香取俳壇

坂本 正夫選

昭和といふ無垢にもどれる羽子の音

諏訪 延子(白井)

評 掲出句は一種の物語的な句姿であるが、その物語を一句の中で前に進める力がある。羽子が高く空中を舞うのも美しいがその音に物語を語らせたのが斬新。

夢買ふもすべて見せたり福袋

椎名 加津代(扇島)

海山の幸が色づく雑煮膳

奥村 利夫(一ノ分目)

二月逃ぐ逃げ場探しつ農夫老ゆ

宮崎 弘(白井)

捨てがたき母の譲りのちゃんちゃんこ

増田 都美子(一ノ分目)

耳鳴りは宇宙の交信寒昂

郡 千恵子(下小川)

香取歌壇

稲村 恒次選

・旧仮名遣い

切り置きし白菜なるに葉の伸びて芯のめぐりをなほ巻かむとす 伊藤 かつ江(津宮)・
評 料理用に切って保存した白菜だったのに、なお葉を伸ばし芯のめぐりを巻こうとしている。その生きようとする旺盛な生命力に強い衝撃を受けたのだ。結句の「なほ巻かむとす」にその感動が如実に表された。

神木に手を合はす人かざす人香取の宮に年明けにけり 香取 一郎(香取)・

けふも亦生かされてある喜びに雨戸繰りつつ背伸びするなり 鈴木 一満(八筋川)・

わが庭の蜜柑美味しと里の父鈴なりの枝より選りてもぎおり 人見 羽津江(小見川)・

あたたかき光を受けて春耕の始まる前の田の面静けし 菅谷 文子(神生)・

わが庭に棲まふ土竜の達者らし夜ごと掘りたる小山増えゆく 長嶋 理子(高萩)・

編集後記

今年はずっと暖冬。スタッフドレスのタイヤに交換する必要がないと思っていたのですが、天気予報が脅すので、結局、履き替えました。自家用車での通勤のため油断できません。でもこうして雪や路面凍結に備えていると、不思議なもので、活躍の場面はあまり巡ってこないですね。無駄になるかも知れないけれど、「備えずに事故を起こしたら絶対悔しい」という気持ちがあるので納得しています。備えてダメなら諦めもつくというもの。降ると予報されても降らない雪に、つまらないような、ありがたいような、微妙な心境のまま2月に突入しました。無駄な備えで終わって春を迎えたいですが、一度くらいは季節を感じる景色に出会いたいです。なんて贅沢を言ってみます。(H)

今月の納期限	
2月29日(月)	
国民健康保険税	(8期)
介護保険料	(8期)
後期高齢者医療保険料	(8期)
今月の休日納税相談日	
2月28日(日)	

かとり

平成28年(2016)2月15日号 No.238
編集 香取市役所総務企画部秘書広報課
〒287-8501 千葉県香取市佐原口2127
TEL 0478-54-1111 FAX 0478-52-4566
http://www.city.katori.lg.jp